



様式1(主な取組)

| 活動指標名   | 訪問学校数(校) |       |       |       | H29年度  |   |             | H29年度<br>決算見込額<br>合計 | 進捗状況  | 活動概要   |
|---|----------|-------|-------|-------|--------|---|-------------|----------------------|---|--|
| 実績値   | H25年度    | H26年度 | H27年度 | H28年度 | 実績値(A) | 計画値(B)  | 達成割合<br>A/B |                      |   |  |
|   | 12校      | 14校   | 10校   | 10校   | 16校    | 10校   | 100.0%      | 0                    | 順調  | (一財)自治体国際化協会(クレア)と連携し、県内小中学校や特別支援学校へ国際交流員4人(中国、韓国、ペルー、米国)を派遣し、異文化紹介や交流授業を通して、生徒の国際理解の向上を図った。 |
| 活動指標名   |          |       |       |       | H29年度  |   |             |                      |   |  |
| 実績値   | H25年度    | H26年度 | H27年度 | H28年度 | 実績値(A) | 計画値(B)  | 達成割合<br>A/B |                      |   |  |
|   |          |       |       |       |        |   |             |                      |   |  |
| 活動指標名   |          |       |       |       | H29年度  |   |             |                      |   |  |
| 実績値   | H25年度    | H26年度 | H27年度 | H28年度 | 実績値(A) | 計画値(B)  | 達成割合<br>A/B |                      |   |  |
|   |          |       |       |       |        |   |             |                      | 進捗状況の判定根拠と取組の効果<br>今年度より(一財)自治体国際化協会と連携を図ったことで従来より多くの学校訪問を実施することが出来た。また、普段外国人との関わりが少ない北部や離島の学校も訪問し、国際理解の向上を図ることが出来た。小中学生の異文化理解が多文化共生社会の実現にも寄与することと共に、海外へ飛躍するきっかけとなり、海外と沖縄県の交流の架け橋となる人材育成にも寄与する。 |  |
| (2)これまでの改善案の反映状況  |          |       |       |       |        |   |             |                      |   |  |
| 平成29年度の取組改善案  |          |       |       |       |        | 反映状況  |             |                      |   |  |
| <p>①地域によって隔たりのない国際理解教育のためにも、宮古・八重山地域等離島への募集を継続して行うよう実施主体に働きかける。</p> <p>②派遣校の年間計画策定時に合わせた効果的な事業の調整に努める</p> |          |       |       |       |        | <p>①北部や宮古・八重山地域等離島への募集を継続して実施した。</p> <p>②今年度は実施主体が財団から自治体国際化協会へ変わったことから、募集開始時期が遅れてしまった。次年度以降周知方法や募集方法を工夫する。</p> |             |                      |   |  |



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

#### ○内部要因

- ・離島や北部などの遠隔地域は、外国人との交流機会が少ないため、交流員の学校訪問の果たす役割は大きい。
- ・事業主体が財団より自治体国際化協会沖縄県支部(交流推進課内)へ変更になり、より柔軟、迅速な事業実施が可能となった。
- ・学校への周知と募集期間が新学期開始の繁忙期と重なると応募校数が減少する傾向がある。

#### ○外部環境の変化

- ・幼稚園や高校、大学等からも交流員を活用した外国人と触れあう機会の創出や異文化理解授業への要望がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・地域によって偏りのない国際理解教育のためにも、北部、宮古・八重山地域等離島を含めた遠隔地域への募集を継続して実施する必要がある。
- ・学校の年間計画策定時にあわせてより効率的な事業周知や実施について調整する必要がある。
- ・訪問授業の他に、県民向けの文化講座等の実施も検討する必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・地域によって偏りのない国際理解教育のためにも、北部、宮古・八重山地域等離島を含めた遠隔地域への募集を継続して実施する。
- ・学校の年間計画策定時にあわせてより効率的な事業周知や実施について、実施主体と連携、調整していく。
- ・訪問授業の他に、県民向けの文化講座等の実施を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

|          |   |                     |         |                     |     |
|----------|---|---------------------|---------|---------------------|-----|
| 施策展開     | 5-(4)-ア   | 国際社会、情報社会に対応した教育の推進 | 施策      | ① 外国語教育、海外交流・留学等の充実 |     |
|          |   |                     | 施策の小項目名 | ○留学派遣及び海外教育機関等との交流  |     |
| 主な取組     | 次世代ウチナーネットワーク育成事業(一部)   |                     |         | 実施計画記載頁             | 393 |
| 対応する主な課題 | ②国際的視野を持ち、国際社会において主体的に行動できる人材を育成するため、外国語教育の充実、国際理解教育の推進及び留学や外国人との交流などを通じた実践的なコミュニケーション能力の向上等を図る必要がある。 |                     |         |                     |     |

1 取組の概要(Plan)

| 取組内容   |                | 年度別計画                        |                                  |    |    |                 |
|--|----------------|------------------------------|----------------------------------|----|----|-----------------|
|  |                | 29                           | 30                               | 31 | 32 | 33              |
| 海外県系人子弟と沖縄県の青少年が互いに交流、研鑽する場を設けることにより、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。 |                | 30人<br>交流人数                  |                                  |    |    | 40人(ウチナーンチュ大会時) |
|  |                | 県内に海外県系人子弟を招聘し、県内学生との交流事業を実施 |                                  |    |    |                 |
| 実施主体   | 県              | 10人<br>派遣人数                  |                                  |    |    |                 |
| 担当部課【連絡先】  | 文化観光スポーツ部交流推進課 | 【098-866-2479】               | 県内学生を海外県人会宅に派遣し、ホームステイによる交流事業を実施 |    |    |                 |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

| 予算事業名 | ウチナージュニアスタディー事業 |        |              |              |              |              | H30年度          |       | 平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画   |
|-------|-----------------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------|--|
|       | 主な財源            | 実施方法   | H25年度<br>決算額 | H26年度<br>決算額 | H27年度<br>決算額 | H28年度<br>決算額 | H29年度<br>決算見込額 | 当初予算額 |  |
| 県単等   | 委託              | 11,995 | 12,743       | 13,191       | 17,501       | 13,807       | 14,854         | 県単等   | ○H29年度: 海外県系人子弟16名を沖縄に招聘し、県内の同年代17名と一週間生活をともにしながら、沖縄の歴史や文化等を学習するプログラムを実施した。<br>○H30年度: 県系人子弟17名を沖縄に招聘し、県内の同年代16名と一週間生活をともにしながら、沖縄の歴史や文化等を学習するプログラムを実施する。 |

様式1(主な取組)

| 予算事業名 海邦養秀ネットワーク構築事業 |                       |              |              |              |              |                | H30年度       |   | 平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画   |   |
|----------------------|-----------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|---|--|---|
| 主な財源                 | 実施方法                  | H25年度<br>決算額 | H26年度<br>決算額 | H27年度<br>決算額 | H28年度<br>決算額 | H29年度<br>決算見込額 | 当初予算額       | 主な財源  | 活動概要   |   |
| 県単等                  | 負担                    | 4,480        | 4,511        | 4,511        | 5,111        | 5,111          | 5,111       | 県単等   | ○H29年度: 8月に沖縄の高校生・大学生10名をアルゼンチン共和国(在亜沖縄県人連合会)へ約2週間ホームステイ派遣し、現地の県系人との交流を図った。<br>○H30年度: 8月に沖縄の高校生・大学生10名をアメリカガーデナ(北米沖縄県人会)へホームステイ派遣し、現地の県系人との交流を図る。 |   |
| 活動指標名                | 【ウチナージュニアスタディー事業】交流人数 |              |              |              | H29年度        |                |             | H29年度<br>決算見込<br>額合計  | 進捗状況   | 活動概要  |
| 実績値                  | H25年度                 | H26年度        | H27年度        | H28年度        | 実績値(A)       | 計画値(B)         | 達成割合<br>A/B |   |  |   |
|                      | 32人                   | 33人          | 33人          | 44人          | 33人          | 30人            | 100.0%      | 18,918  | 順調   | ウチナージュニアスタディー事業として、海外移住者子弟を沖縄県に招へいし、県内の学生と1週間合宿を行いながら沖縄について学ぶプログラムを実施した。また、海邦養秀ネットワーク構築事業として、2週間程度県内の学生を海外県人会へホームステイ派遣した。 |
| 活動指標名                | 【海邦養秀ネットワーク構築事業】派遣人数  |              |              |              | H29年度        |                |             |   |  |   |
| 実績値                  | H25年度                 | H26年度        | H27年度        | H28年度        | 実績値(A)       | 計画値(B)         | 達成割合<br>A/B |   |  |   |
|                      | 9人                    | 10人          | 10人          | 10人          | 10人          | 10人            | 100.0%      |   |  | 進捗状況の判定根拠と取組の効果   |
| 活動指標名                |                       |              |              |              | H29年度        |                |             |   |  |   |
| 実績値                  | H25年度                 | H26年度        | H27年度        | H28年度        | 実績値(A)       | 計画値(B)         | 達成割合<br>A/B | 各事業の参加人数は計画値を達成している。平成29年度は、「世界のウチナーンチュの日」に関連するイベントにも各交流事業参加者が参加し、ウチナーネットワークの担い手としての更なる意識付けをすることができた。 |  |   |

## 様式1(主な取組)

| (2)これまでの改善案の反映状況  |  |
|---|--|
| 平成29年度の取組改善案  | 反映状況   |
| <p>①沖縄の将来の国際交流を担う人材を着実に育成し、各国際交流事業を超えたネットワーク化を促進していくために、参加者のニーズに合ったフォローアップの取組を実施する。</p> <p>②「世界のウチナーンチュの日」の取組に、次世代のウチナーネットワークを担う人材の参加が促進されるよう連携を図る。</p> | <p>①H29年度は、県交流事業参加者を中心に、「OBOGリーダーシップトータルスキルアップ体験型研修」として、リーダーに必要なスキルを磨く研修を実施したうえで、ウチナーネットワーク大合宿を実践の場として、研修受講者が自然とリーダーシップを発揮する場面を作った。</p> <p>②「世界のウチナーンチュの日」制定記念祭に各交流事業参加者を参加させた。ウチナージュニアスタディー事業県内参加者は、次世代のウチナーネットワークの担い手代表として記念祭エンディングで未来へのメッセージを発表したことにより、「世界のウチナーンチュの日」が若い世代へ定着する一役を担った。海邦養秀ネットワーク構築事業では、参加者に課した県系人へのインタビューの中に「世界のウチナーンチュの日を知っているか」という問いを盛り込み、当該日の周知を図った。</p> |



### 3 取組の検証(Check)

| (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)   |  |
|--|--|
| <p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度はウチナーネットワーク大合宿等ウチナーネットワークサポート事業でのアフターフォローイベントが実施されない予定である。</li> <li>・平成29年度は「世界のウチナーンチュの日」関連イベントに各交流事業参加者が参加することで、ウチナーネットワークの担い手としての意識向上に繋がった。</li> </ul> | <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に開催された第6回世界のウチナーンチュ大会において、毎年10月30日が「世界のウチナーンチュの日」と制定されたことなどを踏まえ、次世代も含めウチナーネットワークを担う各主体が沖縄とのつながりを強化する取り組みを行う行動宣言がなされた。</li> </ul> |
| (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・各交流事業の参加者が連携することで新しい絆を築くことができるとともに、お互いに刺激しあい、ウチナーネットワークの活性化につながる。</li> <li>・事業終了後も国際交流関係事業を紹介するなど、アフターフォローを行うことでウチナーネットワークへの意識付けを促すことができる。</li> </ul>                        |  |

## 様式1(主な取組)



### 4 取組の改善案(Action)

- ・各交流事業参加者が連携し、それぞれの事前学習やプログラム内で交流できる機会を設けることで、新たなネットワークを築くとともに、ウチナージュニアスタディー事業参加者が数年後海邦養秀ネットワーク構築事業に参加するなど、他交流事業への積極的な参加を促す。
- ・各交流事業参加者に対し、「世界のウチナーンチュの日」イベント等への参加を促し、事業終了後もウチナーネットワークの担い手としての意識向上を図る。